

県中教育

業界の常識は世間の非常識？

県中教育事務所 総務次長

酒井 英資

随想

昨今、世間を騒がせている話題の一つに大相撲における八百長疑惑がある。昨年社会的問題となつた野球賭博に関する警察の捜査の過程で見つかったものである。八百長疑惑については、これまでも噂されてきたが、当事者である相撲協会は一貫して否定してきており、理事長の記者会見でも「過去には一切なかった。」と断言している。

ことの真否は別として、協会自らの努力ではなく、警察の捜査の過程で発覚したことに問題がある。私は考える。それが、身内だけで自己完結的に物事を解決しようとし、外部からの批判を受け入れようとする組織のあり方から問題である。

標題に戻るが、日本相撲協会が常識とされてきたことは、今や世間では非常識とされていることを指摘しておきたい。

かつて、私は農協の監督・検査に携わったことがあったが、そこでの三年間は、現金の着服などの不祥事への対応に追われたものであった。また、その頃の一部農協の不祥事対応は、現在の相撲協会に似ていた。

不祥事が発覚しても、企業で言えば株主でもあらゆる組合員にすら公表しやうとせず、内輪だけで処理しようとするものであり、当時既に社会的な要請でもあった「企業の社会的責任」を果たさず、その態度とは程遠いものであった。そこで私たちの求めたことは、不祥事を矮小化することなく、

組織の問題として認識し、原因を分析し、具体的な対策を樹立して防止のため、情報の開示を行うことと、情報の開示による説明責任を果たすことである。

さて、福島民報社がまとめた昨年の県内十大ニュースの六番目が「公務員不祥事が多発 県民の信頼裏切る行為」であった。そこには教職員によるものも多く含まれていた。

不祥事防止の対策は、様々な形で示されており、そのことについては、言及するつもりはないが、具体的・計画的なもの、外部からの批判にも応えうるものを愚直に推進する必要があると考える。

「公務員の常識は世間の非常識」といわれることのないよう、また年末の十大ニュースに載らないうことを年頭に当たって願っている。



編集・発行
 福島県教育庁
 県中教育事務所

発行責任者
 佐藤 馨

編集協力
 県中市町村教委連各支会
 県中各地区小中学校長協議会

記憶に残った暑さ

県中教育事務所 学校教育課長

大和田 範雄

この時期、足下が凍える事務所で来年度に向けて業務に追われていると、二〇一〇年の夏が記録的な猛暑であったことなど遠い過去のことのようです。

二〇年前の一九九〇年も炎暑に悩まされた年でした。この年、私は研修のため、東京で単身赴任生活を送っており、楽しみといえれば、エアコンもない安アパートで飲む冷えた缶ビール、どんなに忙しくてもゆったりと時間を掛けた指導教授との昼食時の雑談ぐらいのものでした。指導教授は、民間の研究での成果が認められ、退職後大学に迎えられた方であったため、教育について、違った視点から観察されていた。雑談の中で、「大学の教員は、『せっかく指導してやっていくの』に、今の学生は、『なんでも口にする』ことが多い。学生をどうしようか、何に『と』といったお話を何度かありました。研修指導の最も大きな成果は、指導力の不足を生徒の学習意欲の低さに転嫁すること

で正当化しようとしている自分の姿に気付いたことでした。

学校現場に戻り、研修での気づきを忘れかけていた時、老人介護に就く方に、学校での愚痴を話したことがありました。その時「私たちはこれから死を迎える人を相手にしている。これから生きていく人を相手にしているのだから、いくらでも教えることや教える方法があるだろう」と一喝されました。

この二点以外にも、多くの先輩、同僚、生徒達からいただいた温かい薫陶は、私の記憶に残り、教職の大きな糧になっています。

二〇一〇年暮、当時早稲田大学野球部の齋藤佑樹君が「私は仲間を持つている」と、酷暑を締めくくってくれました。私たちが、「希望や夢を抱き、これからの社会を生き抜いていく子どもたちを持つていてほしい」と爽やかな笑顔で答えているもの

家庭学習プログラム開発校の取組み

鏡石町立第一小学校

今年度、家庭学習プログラム開発校として、主に3つの視点から確かな学力の定着を図ってきた。

1 児童の学習意欲を高める授業の研究

- 家庭学習との「つなぎ」を図る授業の構想
- 授業における話し合い活動と板書の工夫
- 学びの習慣形成に関するアンケート調査の実施

2 学び方の定着を図る指導の工夫

- 学習の習慣づくりを意識した授業の展開
- 家庭学習の手引きの有効活用
- 学習過程を見取るノート指導
- 「5分間学習」の評価と累積



3 家庭における学習環境の整備

- ノーゲーム・ノーネット・デーの推進と学習時間の確保
- 授業と家庭学習との関係を理解させる講演会の開催（保護者への啓蒙）

以上の結果、次のような成果が見えてきた。

- ① 家庭学習と授業との結び付きを意識した授業を展開した結果、児童が進んで発表したり、質問したりする場面が多く見られるようになった。
 - ② 家庭学習の手引きの活用の仕方を、講演会等で児童や保護者に説明する機会を設けたことで、家庭における調べ学習に取り組めるようになった。保護者も、児童が自分で学習に取り組むよう応援する姿が見られるようになってきた。
 - ③ テレビゲームをしない日を親子で話し合っただけでなく、取り組みが昨年度より意識化され、家庭学習の時間が徐々に増えてきた。学年の発達段階に応じて、学習に集中して取り組む時間が多くなるよう具体的な方策を講じていきたい。
- これからも、児童が学ぶ楽しさを体感できるよう、さらに研究を深めていきたい。



鏡石町立鏡石中学校

本校は、以前から鏡石町内の二つの小学校と連携し、学習習慣の確立を目指した実践を積み上げてきました。今年度は開発校の指定をうけ、今までの実践を深める以下の内容に力を入れました。

○学習の手引きの改善

保護者向け学習の手引きを小中3校で共通の形式とし、9年間での学習習慣の定着を目指しました。

○ノーゲーム・ノーネット・デーの推進

町PTA連絡協議会と連携し、幼小中中で毎週月曜日にはゲームやパソコンで遊ばない日を提唱してきました。今年度はその実施率を向上させるよう啓蒙活動に力を入れました。

○親子で考える家庭学習時間設定の手引きの配布

充実した家庭学習のためには、まず「学習時間を確保」そして「学習の質の向上」という2段階で、親子でじっくり話し合っただけでなく、家庭学習の時間を設定していけるよう手引きを作成し配布しました。

○夏休みフリー寺子屋の実施

せっかく定着していた学習習慣が長期休業中に崩れないよう、自由参加型自主学習会を実施しました。町のボランティア「学校応援団！」の協力の下、昨年度より参加者が大幅に増加しました。



上記の実践を今後も継続し、さらに学習習慣を定着させるには、日々の質の高い授業が基本です。個に応じた学習相談にも力を入れ、授業と家庭の学習サイクルが確立できるよう、町全体で取り組んでいきたいと考えています。

石川町立石川小学校

本校の取組みは、石川町教育委員会のご指導のもと石川中学校との連携を図りながら行っています。

本校では「家庭学習プログラム開発校」として、「授業と家庭をつなぎ、学習への見通しと意欲をもつ学習習慣の確立」を目指しています。本校の学習習慣のとらえは「授業の中で考える学習習慣」と「家庭学習に向かう姿勢としての学習習慣」の二つです。これをもとに、次の四つの実践を行っています。

1 現職教育研究の取組みを生かす

授業と授業を家庭での学習活動でつなぐ活動を提案し、全担任が授業実践研究を実施する。

2 石川町教育委員会の事業「いしかわの時間」を生かした学習習慣づくり

子どもの発達と実態に合った、日々の家庭学習の内容や方法を提示する。その取組み状況を保護者と教師が評価できるような手立ての改善を行う。

3 定着確認シートの活用

定着度をもとにした個別指導（4～6学年）を、学年以外の教員も加わって実施する。

4 家庭への情報提供と呼びかけ

保護者対象のアンケートを実施（6月と11月）し、生徒指導だよりを使って情報提供をする。

以上の取組みにより、次のような成果を上げることができました。

- 授業と授業の間の活動を工夫していくと、単元を通したPDCAサイクルが充実すること
- 子どもの家庭学習の時間が多くなったこと
- 保護者の家庭での学習への関わりが多くなってきたこと（保護者の意識調査の変容から）

新学習指導要領でも学習習慣の確立が叫ばれています。今年度の成果を受けて、今後とも改善を加えながら取り組んでいきたいと思っています。



石川町立石川中学校

本校では昨年度より「学びの習慣を育てる教育」を現職教育の研究主題として取り組んでいます。本年度は3か年計画の2年次として「学びのサイクルを高める授業の工夫」を副主題とし、教師の指導力の向上、生徒一人一人の確かな学力の向上を目指し、実践に努めてきました。

1 授業における取組み

各教科における、既習事項を生かした導入、まとめの段階での家庭学習課題提示の工夫、予習・復習の励行などにより、授業と家庭学習のサイクルが定着し、「学びの習慣」の確立に関して一定の成果を確認することができました。

2 授業以外での学習を支援する手立て

定期テスト計画表の作成、学習相談、啓発のための教育講演会の開催などに取り組めました。また、家庭学習については、校内での指導とともに、石川町教育委員会の事業「いしかわの時間」と連携し、テレビやビデオ、メールから離れた時間の確保にも取り組めました。結果として家庭学習の時間や頻度が大幅に向上してきました。

さらに、生徒や保護者へのアンケートから、保護者としてのアドバイスの仕方が分からないという意見を受け、家庭学習用の学習手引きを配布・活用し、生徒の自学をサポートする体制を整えました。

生徒や家庭は様々な課題を抱えていることが多く、学びの習慣を「授業」と「家庭」だけのサイクルと安直に捉えるべきではないと考えています。

今後は、学校での教育活動が生徒の学ぶ意欲を向上させ、学びの習慣を確立させることによって学力向上が図られることを目標とし、すべての活動、時間を活用した総合型学習サイクルの確立に努めていきたいと思っています。

地域教育相談推進事業（巡回相談）

本事業では、障がいのある、あるいは特別な支援を要する子どもの指導支援に関する支援を行っています。幼稚園や保育所、学校等の要請に応じて巡回相談員を派遣しています。

今年度の相談件数は昨年度の同時期（12月）に比べ、131件増の346件でした。小・中学校、保健福祉機関からの相談が増加しています。加えて、中学校や高校からの問い合わせもあり、本事業へのニーズがうかがえます。以下に、本事業を活用した例を簡単に紹介します。

平成22年度巡回相談件数内訳（12月末現在）

Table with 3 columns: 要請先, 相談件数, 昨年度比. Rows include 幼稚園・保育所, 小学校, 中学校, 高等学校, 保健福祉機関, 合計.

<子どもの特性に応じた学習指導方法等について>

巡回相談員が保育や授業を参観し、先生方と共に指導支援の方法について検討しました。そのことで、先生方は子どもの特性を再確認することができ、集団場面で子どもの得意なところを生かした指導支援の方法を組み立てて実践するケースが多く見られました。集団の中で子どもが力を発揮できる席順や掲示物等の教室環境の整備、見て理解しやすい板書や発問の工夫等、授業のユニバーサルデザインを意識した取組みに本事業が活用されています。

<校（園）内支援体制整備にむけて>

校（園）内の指導支援体制を整えるにあたり、個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成について本事業が活用されました。子どもの教育的ニーズの共通理解と支援方法、教師がチームになって支援する組織作り、保護者や関係する機関との連携等の視点等を巡回相談員が先生方に情報提供しました。その情報を各校が整理し、各種計画作成に生かす取組みが多く見られました。

<保護者との連携にむけて>

教師と保護者が子どもの指導支援の方向性について共通理解を図るため、巡回相談員を交えたケース会議を実施する学校（園）が増えています。ケース会議では、子どもの教育的ニーズの確認、学校と家庭との役割分担、指導支援方法の共通理解、関係する機関の活用等が協議されました。各校（園）では、巡回相談員からの情報を生かし、保護者や関係する機関と連携を密にした指導支援を充実させる取組みが見られました。

本事業を活用した学校等からは、「子どもの指導支援の充実に向けて参考になる情報を得た。」「保護者と共通理解を図る機会になった。」などの感想をいただきました。域内では、個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成し実践する学校（園）が増加しています。このことは、保護者や関係する機関と連携し、子ども一人一人の特性に応じた指導支援を充実させようとする現れであり、今後、各計画の積極的な活用が期待されます。

しかし、まだまだ課題や悩みを抱える学校等が多いことも事実です。各学校等が課題や悩みを解決できるように、今後もそれぞれのニーズに応じた支援に努めていきたいと考えます。そして、特別な支援を必要とする子どもたちが「地域で共に学び、共に生きる」教育のために本事業を生かしていただきたいと考えます。

本事業や特別支援教育の推進に関することで不明な点がございましたら、本教育事務所までお問い合わせください。

各種表彰

（敬称略）

◆文部科学大臣表彰

教育者表彰

郡山市立郡山第一中学校 校長 村越 秀樹

教育行政功労者表彰

前小野町教育委員会教育長 吉田 勝人

社会教育功労者表彰

ボーイスカウト郡山第2団 委員長 仲村 魁

優秀教員表彰

郡山市立明健小学校 教諭 大塚 欣之

須賀川市立第三小学校 教諭 柿沼 孝明

須賀川市立仁井田中学校 教諭 小林 一彦

玉川村立泉中学校 教諭 上澤 史子

県立安積高等学校 教諭 遠藤 直哉

県立郡山商業高等学校 教諭 石田 智子

優良公民館表彰

須賀川市仁井田公民館 優良PTA表彰

石川町立中谷第二小学校 父母と教師の会

学校給食表彰（共同調理場） 天栄村学校給食センター

キャリア教育推進 優良教育委員会・学校表彰

三春町キャリア教育実行委員会

◆福島県教育委員会表彰

地方教育行政功労者表彰 浅川町教育委員会

学校教育功労者表彰 委員 奥貫 美知子

*四面に掲載

社会教育施設表彰

郡山市立中田公民館 須賀川市稲田公民館

特別支援教育功労者表彰 県立豊学校

校長 緑川 孝夫

教育文化関係表彰・優秀教員 郡山市立薫小学校

教諭 土屋 直之

須賀川市立阿武隈小学校 教諭 善方 威浩

石川町立石川中学校 養護教諭 三森 弘子

県立安積黎明高等学校 教諭 佐藤 伸也

県立須賀川養護学校 教諭 渡辺 史宏

教育文化関係表彰・児童生徒 郡山市立郡山第二中学校合唱部

*全日本合唱コンクール金賞 文部科学大臣賞

県立安積高等学校合唱団 *全日本合唱コンクール金賞

県立安積黎明高等学校合唱団 *NHK全国音楽

コンクール金賞

◆福島県教職員研究論文表彰

入選（団体） 郡山市立芳山小学校

郡山市立郡山第二中学校 入選（個人）

郡山市立上伊豆島小学校 教諭 吉田 英俊

奨励賞（団体） 県立須賀川養護学校

◆第六十一回福島県学校関係

緑化コンクール 学校林等活動の部

知事賞・福島民報社社長賞 古殿町立大久田小学校

◆福島県定書 表彰

最優秀賞（県知事賞） 郡山市立小泉小学校

福島県教育委員会学校教育功労者表彰

郡山市立芳山小学校校長 工藤博

この度、福島県教育委員会より学...

温かい励ましの言葉やご指導く...

郡山市立郡山第一中学校校長 村越秀樹

この度、福島県教育委員会より学...

今年度の受賞は、多くの上司・先輩...

思いで一杯です。今後は、教育を職業ではなく...

田村市立船引中学校校長 船田隆典

学校教育功労者受賞の榮譽に浴...

誰か最初から職務を理解し、て...

いらないような気がしています。残りの在職期間、出来るだけ多...

福島県立安積高等学校校長 鈴木仁

この度、福島県教育委員会より...

自分の担当教科では、数学を好...

福島県立郡山養護学校校長 渡邊世子

この度は、学校教育功労者表彰...

援教育を志し、昭和五十五年特別支...

総務社会教育課(社会教育担当) からのお知らせ

来年度の施策等については、過日...

豊かな心をはぐくむ 子ども読書活動推進事業

子どもに読書の楽しさを実感さ...

子どもをはぐくむ 家庭・地域支援事業

関係機関と連携して子育てや家...

「家庭教育サポートブック」の配付

今年度内にサポートブックが配...